

# Part 1

---

中学校の部

第2章

中学校における  
キャリア教育の理解

### ◆第1節 キャリア教育の理解

#### 1 キャリア教育の系譜

- ① 中教審「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」(答申)(1999年12月)
  - ・キャリア教育とは、「学校教育と職業生活の円滑な接続を図るため、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」をいう。
  - ・キャリア教育は、学校ごとに目標を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある。
- ② 文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」(報告書)(2004年1月)
  - ・キャリア教育とは、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」、端的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」をいう。
  - ・キャリア教育は、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革することを求めるものである。
- ③ キャリア教育等推進会議「キャリア教育推進プラン」(2007年5月)
  - ・キャリア教育とは、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」をいう。
- ④ 中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申)(2011年1月)
  - ・キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」をいう
  - ・キャリア教育においては、幼児期の教育から高等教育まで、発達の段階に応じて体系的に実施されるべきであり、様々な活動を通じて、基礎的・汎用的能力を中心に育成する。

#### 2 「キャリア教育」に関する施策の展開

- ① 教育基本法の改正(2006年)
  - 第2条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。
    - 二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- ② 学校教育法の改正(2007年)
  - 第21条 義務教育として行われる普通教育は、……目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。
    - 2 学校内外における社会的活動を促進し、自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
    - 4 家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項について基礎的な理解と技能を養うこと。

- 10 職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと。

第51条 高等学校における教育は、……目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 1 義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。
- 2 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。
- 3 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。

③ 高等学校学習指導要領の改訂（2009年3月）

- ・高等学校指導要領総則第5款教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項
- ・教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項

生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること。

- ・職業教育に関して配慮すべき事項

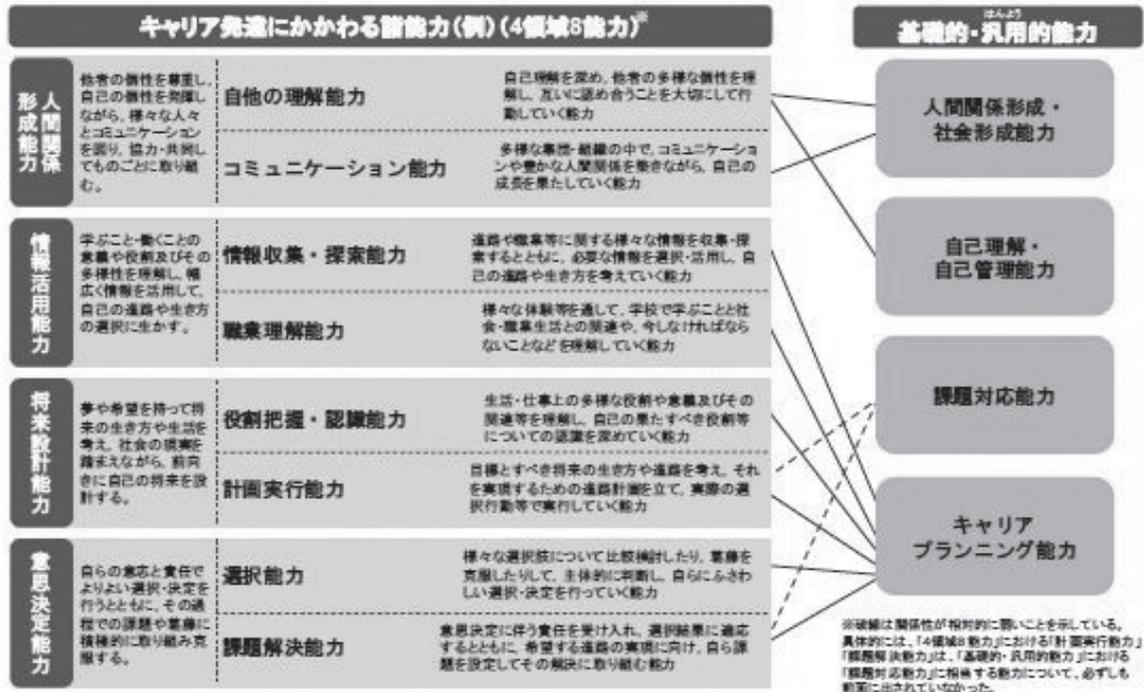
学校においては、キャリア教育を推進するために、地域や学校の実態、生徒の特性、進路等を考慮し、地域や産業界等との連携を図り、産業現場等における長期間の実習を取り入れるなどの就業体験の機会を積極的に設けるとともに、地域や産業界等の人々の協力を積極的に得るよう配慮するものとする。

④ 「4領域8能力」と「基礎的・汎用的能力」の関係

- ・キャリア教育を通して育成すべき能力として、2002年11月に国立教育政策研究所生徒指導研究センターから「4領域8能力」が示された。
- ・この「4領域8能力」論は、これまでの進路指導の実践を飛躍的に向上させる論理を示したものとして高い評価を受けているが、一方では画一的な運用、本来目指された能力との齟齬、生涯にわたって育成される一貫した能力論の欠如などの課題も内包していた。
- ・2011年1月、中教審は、これまでのキャリア教育で残されてきた課題を踏まえ、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（答申）を取りまとめ、今後のキャリア教育がその中心として育成すべき能力として「基礎的・汎用的能力」を示した。

（参考：文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」2011年3月を基に作成）

【キャリア発達にかかわる諸能力（4領域8能力）と基礎的・汎用的能力の対応関係】



(資料出所：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申) 2011年1月)

⑤ キャリア教育を通して育成すべき「基礎的・汎用的能力」

- ・分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である。
- ・社会人・職業人に必要とされる基礎的な能力と現在学校教育で育成している能力との接点を確認し、これらの能力育成を、キャリア教育の視点に取り込んでいくことは、学校と社会・職業との接続を考える上で意義がある。
- ・基礎となる能力は基礎的・汎用的能力として以下の4つの能力に整理される。
  - i 人間関係形成・社会形成能力
    - ・多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。
    - ・具体的な要素としては、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。
  - ii 自己理解・自己管理能力
    - ・自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。
    - ・具体的な要素としては、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。
  - iii 課題対応能力
    - ・仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。
    - ・具体的な要素としては、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発

見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

iv キャリアプランニング能力

- ・「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。
  - ・具体的な要素としては、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。
- ・これらの能力は、包括的な能力概念であり、必要な要素をできる限り分かりやすく提示するという観点でまとめたものである。この4つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある。このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力をすべての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものでもない。
  - ・これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるかは、学校や地域の特色、専攻分野の特性や子ども・若者の発達の段階によって異なると考えられる。各学校においては、この4つの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて具体の能力を設定し、工夫された教育を通じて達成されることが望まれる。その際、初等中等教育の学校では、新しい学習指導要領を踏まえて育成されるべきである。

(参考：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

(答申) 2011年1月を基に作成)

⑥ 第2期教育振興基本計画(2013年6月14日閣議決定)

- ・社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成等：社会的・職業的自立の基盤となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、労働市場の流動化や知識・技能の高度化に対応し、実践的で専門性の高い知識・技能を、生涯を通じて身に付けられるようにする。このため、キャリア教育の充実や、インターンシップの実施状況の改善、就職ミスマッチの改善に向けた教育・雇用の連携方策の強化を図る。
- ・「社会を生き抜く力」の一態様として、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を身に付けさせるとともに、職業を通じて社会の一員として役割を果たすことの意義についての理解をはじめとした、勤労観・職業観等の価値観を自ら形成・確立できる子ども・若者の育成を目指す。
- ・幼児期の教育から高等教育まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を充実し、特に、高等学校普通科におけるキャリア教育を推進する。その際、子ども・若者の発達の段階に応じて学校の教育活動全体を通じた指導を進めるとともに、地域におけるキャリア教育支援のための協議会の設置促進等を通じ、職場体験活動・インターンシップ等の体験活動や外部人材の活用など地域・社会や産業界と連携・協働した取組を推進する。

### 3 中学校におけるキャリア教育の意義と課題

① キャリア教育の意義

- ・中学校においては、社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等についてしっかり考えさせるとともに、目標を立てて計画的に取り組む態度を、体験を通じてその重要性について理解を深めさせつつ育成し、進路の選択・決定へと導くことが重要である。
- ・各学校においては、キャリア教育の視点で、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動や

日常生活におけるそれぞれの活動を体系的に位置付けることにより、能力や態度の効果的な育成を図ることが必要である。

- ・ 職場体験活動は、ある職業や仕事を暫定的な窓口としながら実社会の現実に向き合うことが中心的な課題となる。その際、活動の効果をより引き出すための指導の改善・充実や、円滑に実施するための条件整備を図ることが必要である。
- ・ 活動の目標やこれを達成するための道筋・手だてを明確なものとし、適切に評価されることを考慮した指導が重要である。例えば、事前指導として、職場体験学習の意義や体験先の仕事内容に関する学習、体験先訪問、また、事後指導として、生徒が成就感・達成感を感じられるよう、自己評価カード作成や体験感想文作成、体験発表会等がある。
- ・ 中学校においては、「学ぶことや働くことの意義」等についての学習や体験的な学習が広く行われるようになっており、生徒がより主体的かつ真剣に自らの進路を考え、目的意識を持って進路選択を行うようになってきている。しかし、進路指導についての中学校の教員と生徒や保護者の認識の差も大きくあり、教員は、生徒や保護者が個性や適性を考える学習を望んでいるという認識を持って、組織的・計画的に進路について指導・援助することが必要である。

(参考：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」)

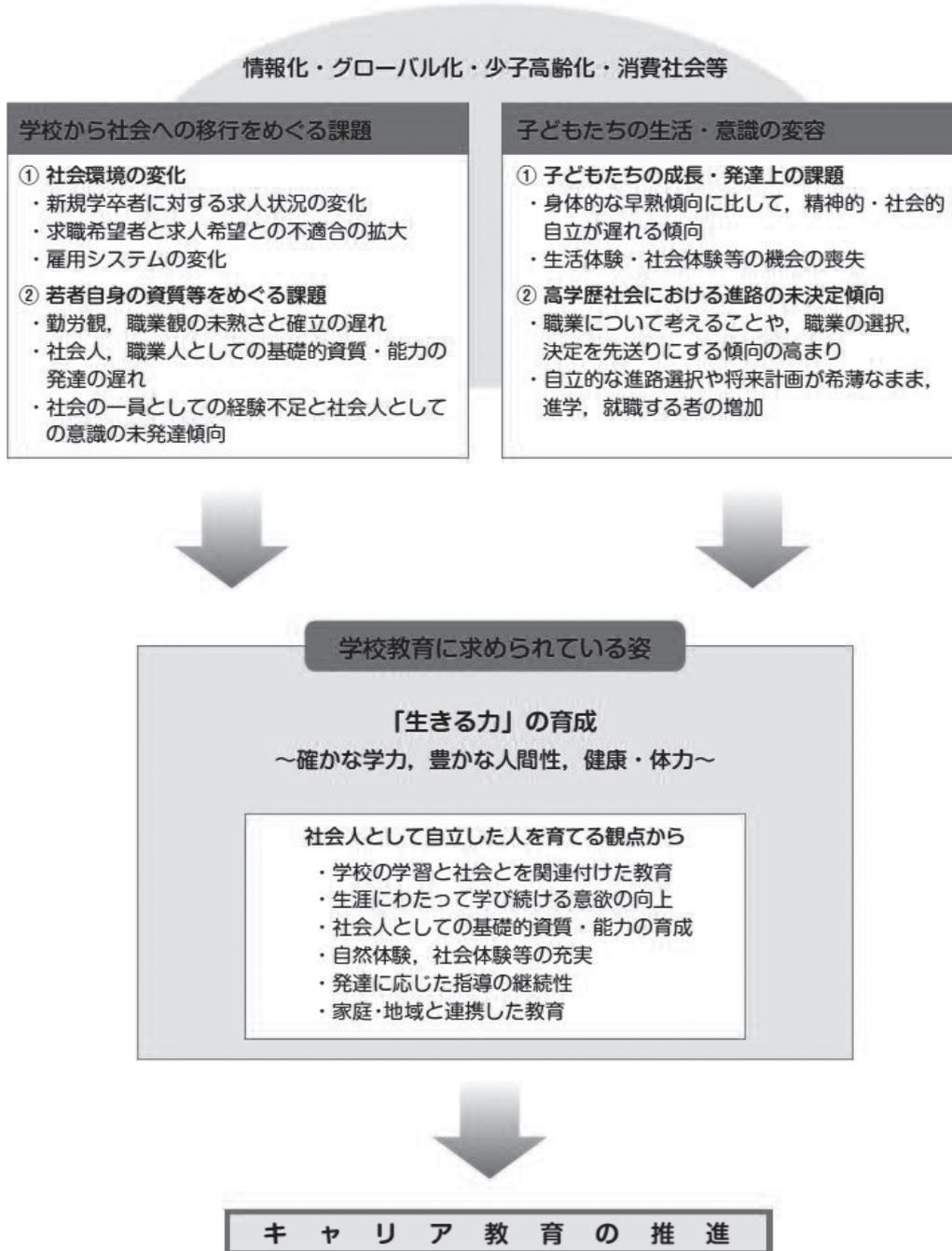
(答申) 2011年1月を基に作成)

## ② キャリア教育の背景と課題

- ・ 子どもたちが育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、子どもたち自らの将来の捉え方にも大きな変化をもたらしている。子どもたちは、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルが見つけにくく、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも容易ではなくなっている。
- ・ 環境の変化は、子どもたちの心身の発達にも影響を与え始めている。例えば、身体的には早熟傾向にあるが、精神的・社会的側面の発達はそれに伴っておらず遅れがちであるなど、全人的発達がバランス良く促進されなくなっている。具体的には、人間関係をうまく構築できない、自分で意思決定できない、自己肯定感をもてない、将来に希望を持つことができないといった子どもの増加などが指摘されている。
- ・ 子どもたちが希望をもって、自立的に自分の将来を切り拓いて生きていくためには、変化を恐れず、変化に対応していく力と態度を育てることが不可欠である。そのためには、日常の教育活動を通して、学ぶ面白さや学びへの挑戦の意味を子どもたちに体得させることが大切である。
- ・ 子どもたちが、未知の知識や体験に関心をもち、仲間と協力して学ぶことの楽しさを通して、未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を体得することで、生涯にわたって学び続ける意欲を維持する基盤をつくることができる。
- ・ 子どもたちが将来自立した社会人となるための基盤を作るためには、学校の努力だけではなく、子どもたちにかかわる家庭・地域が学校と連携して、同じ目標に向かう協力体制を築くことが不可欠である。

(参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引」2011年3月を基に作成)

## 【キャリア教育が必要となった背景と課題】



(資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引」2011年3月)

#### 4 キャリア教育を通して育成すべき能力についての考え方

##### ① 中学校段階におけるキャリア発達課題

- ・中学校段階は、自我の目覚めや独立の欲求が高まるとともに、人間関係も広がり、社会の一員として自分の役割や責任の自覚が芽生えてくる時期である。また、他者とかかわり、様々な葛藤や経験の中で、自らの人生や生き方への関心が高まり、自分の生き方を模索し、夢や理想を持つ時期である。
- ・一方で、高校入学者選抜を始めとする現実的な進路選択を迫られ、自分の意思と責任で決定し

なければならない時期でもあり、キャリア教育実践にとって極めて重要である。

- ・このような発達の段階にある中学生が、自分を見つめ直し、自分と社会との関わり合いを考え、将来における多様な生き方や進路選択の可能性を理解し、自らの意思と責任において自己の生き方や進路選択ができるような能力、言い換えれば、まさしく社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力を育むことはたいへんに重要である。

(参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引」2011年3月及び文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」2011年3月を基に作成)

### 【中学校におけるキャリア発達段階と特徴】

中学校段階でのキャリア発達課題		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリア発達段階 →現実的探索と暫定的選択の時期</li> <li>○キャリア発達課題               <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的自己理解と自己有用感の獲得</li> <li>・興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成</li> <li>・進路計画の立案と暫定的選択</li> <li>・生き方や進路に関する現実的探索</li> </ul> </li> </ul>		
各学年におけるキャリア発達課題の例		
1年生	2年生	3年生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良さや個性が分かる。</li> <li>・自己と他者の違いに気付き、尊重しようとする。</li> <li>・集団の一員としての役割を理解し、それを果たそうとする。</li> <li>・将来に対する漠然とした夢やあこがれを抱く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の言動が他者に及ぼす影響について理解する。</li> <li>・社会の一員としての自覚が芽生えるとともに、社会や大人を客観的にとらえる。</li> <li>・将来への夢を達成する上での現実の問題に直面し、模索する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める。</li> <li>・社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。</li> <li>・将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するための努力に向かう。</li> </ul>

(資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引」2011年3月)

### ② 各教科等との関連

- ・キャリア教育は、すべての教育活動を通して実践されるものであるが、生徒一人一人の「生き方」に直接働きかける「道徳」「総合的な学習の時間」「特別活動」は、特に重要な実践の場となる。
- ・道徳：「主として自分自身に関すること」「主として他の人とのかかわりに関すること」「主として集団や社会との関わりに関すること」等を柱として、「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する」ことを目標としている。  
→キャリア教育との関連が極めて深い
- ・特別活動及び学級活動：特別活動は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ことを目標とする。学級活動は、「適応と成長及び健康安全」と「学業と進路」等を内容とする。  
→キャリア教育の中核的な実践の場
- ・総合的な学習の時間：「横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自己の生き方を考えることができるようにすること」を目標とする。各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすることが重要であり、各教科等で別々に身に付けた知識や技能をつながりのあるものとして組織化し直し、改めて現実の生活にかかわる学習において活用し、それらが連動して機能することが求められている。

→それぞれの教育活動を通じたキャリア教育の実践をつなぐ可能性を有している

(参考：文部科学省国立教育政策研究所生徒指導研究センター

「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」2011年3月を基に作成)

### ③ キャリア教育と職業教育の関係

・育成する力の観点から整理

◆キャリア教育：一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度

◆職業教育：一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度

・教育活動の観点から整理

◆キャリア教育：普通教育、専門教育を問わず様々な教育活動の中で実施される。職業教育も含まれる。

◆職業教育：具体の職業に関する教育を通して行われる。この教育は、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成する上でも、極めて有効である。

(出典：中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

(答申)2011年1月)

### ④ キャリア教育と進路指導

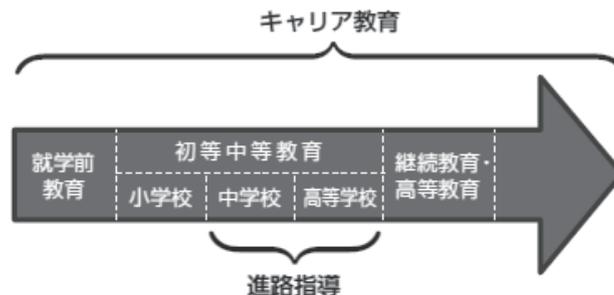
・中学校における進路指導は、教育活動全体を通じ、計画的、組織的に行われるものであり、この点においてキャリア教育との差異はない。また、その定義・概念やねらいも、中学校におけるキャリア教育とほぼ同じと言ってよい。

・キャリア教育は、就学前段階から初等中等教育・高等教育を貫き、また学校から社会への移行に困難を抱える若者(若年無業者など)を支援する様々な機関においても実践されるものである。一方、進路指導は、理念・概念やねらいにおいてキャリア教育と同じものであるが、中学校・高校に限定される教育活動である。

・進路指導は、本来、進路選択を間近に控えた時期になってからの指導・援助や斡旋だけでなく、入学から卒業までにとどまらず、卒業後までも包含した計画的・組織的な教育活動であり、卒業時の進路をどう選択するかを含めて、さらにどういう人間になり、どう生きていくことが望ましいかといった長期的展望に立って指導・援助するという意味で「生き方の指導」とも言える教育活動である。

(参考：文部科学省「中学校キャリア教育の手引」2011年3月を基に作成)

【キャリア教育と進路指導との関係】



(資料出所：文部科学省「中学校キャリア教育の手引」2011年3月)

## ◆第2節 中学校におけるキャリア教育の取組み状況に関する理解

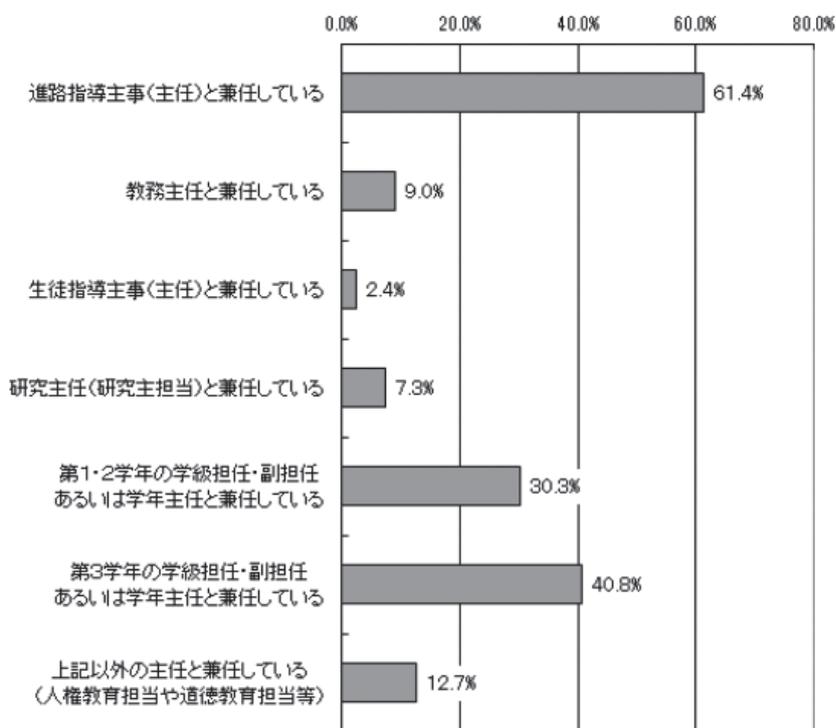
### 1 キャリア教育の取組み状況

#### ① キャリア教育を中心となって進めている人の兼任状況

- ・兼任の状況は、「進路指導主事（主任）と兼任している」が61.4%と最も高い。次いで「第3学年の学級担任・副担任あるいは学年主任と兼任している」が40.8%、「第1・2学年の学級担任・副担任あるいは学年主任と兼任している」が30.3%である。

（参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成）

【キャリア教育を中心となって進める担当者の兼任の状況】



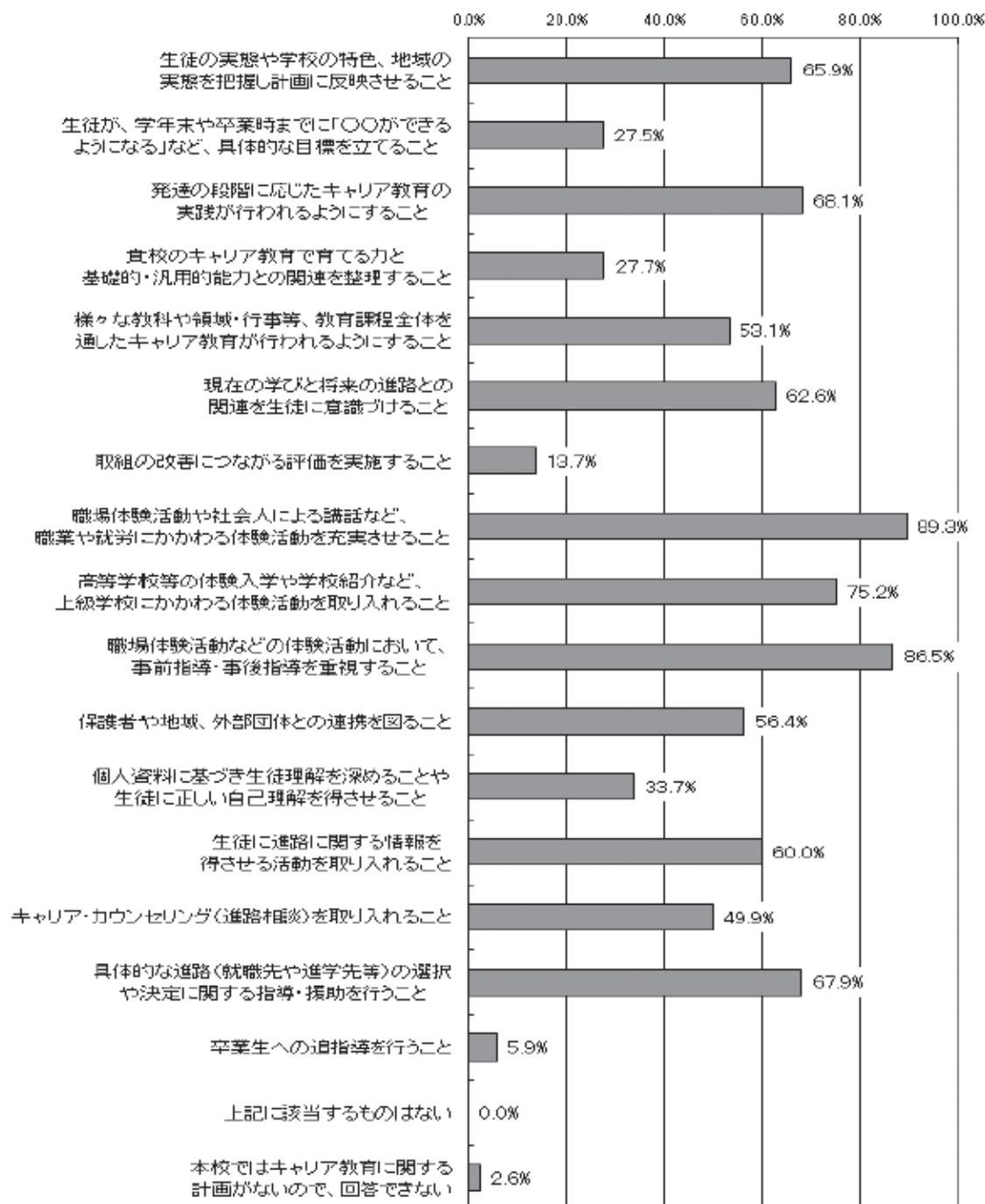
（資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月）

#### ② キャリア教育の計画を立てる上で重視したこと

- ・「職場体験活動や社会人による講話など、職業や就労にかかわる体験活動を充実させること」の割合が89.3%と最も高い。次いで「職場体験活動などの体験活動において、事前指導・事後指導を重視すること」が86.5%、「高等学校等の体験入学や学校紹介など、上級学校にかかわる体験活動を取り入れること」が75.2%等の順である。
- ・割合が低いのは、「貴校のキャリア教育で育てる力と基礎的・汎用的能力との関連を整理すること」が27.7%、「生徒が、学年末や卒業時まで『〇〇ができるようになる』など、具体的な目標を立てること」が27.5%、「取組の改善につながる評価を実施すること」が13.7%、「卒業生への追指導を行うこと」が5.9%である。

(参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成)

【キャリア教育の計画を立てる上で重視したこと】



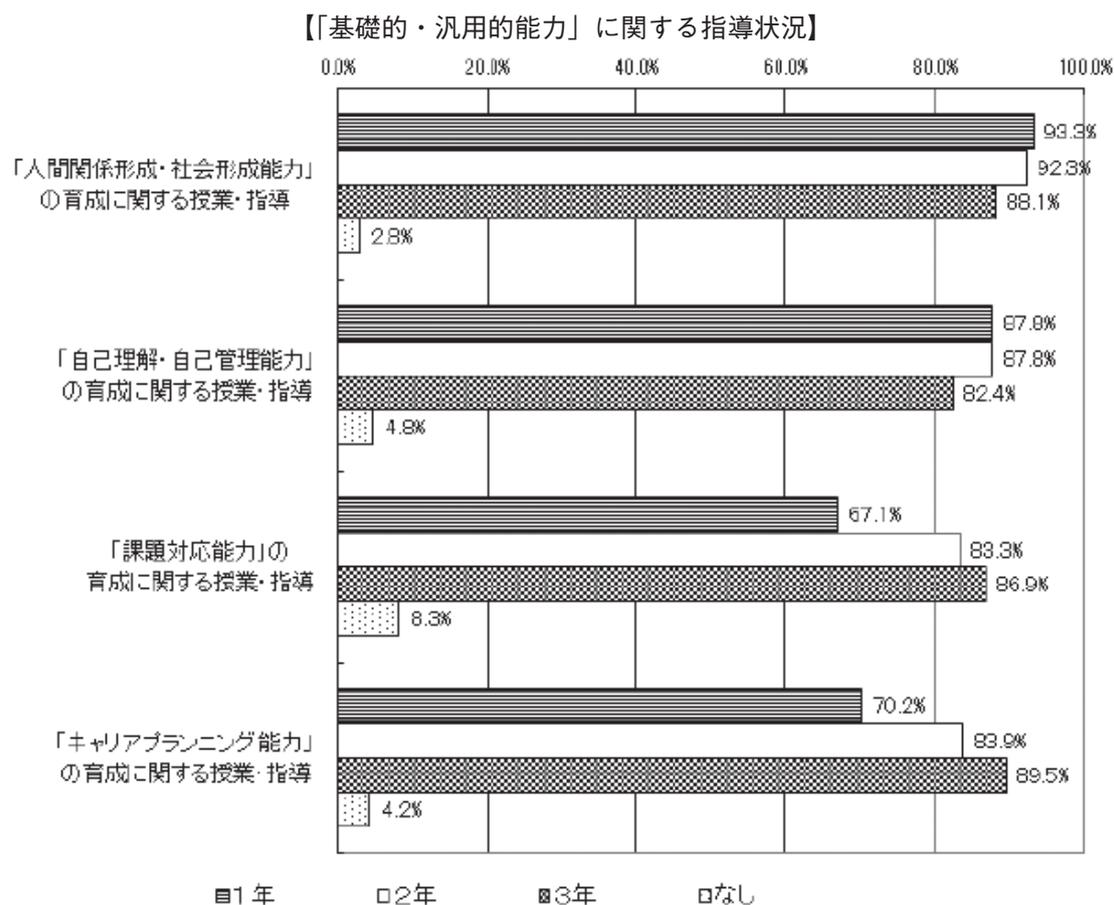
(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

③ 「基礎的・汎用的能力」に関する指導状況

- ・全体的にみると、どの項目も、すべての学年で高い割合で指導されている。「『人間関係形成・社会形成能力』の育成に関する授業・指導」や「『自己理解・自己管理能力』の育成に関する授業・指導」は、「1年」や「2年」での割合は高いが、「3年」では若干低い。一方、「『課題対応能力』の育成に関する授業・指導」や「『キャリアプランニング能力』の育成に関する授業・指導」は「1年」や「2年」よりも「3年」での割合が高い。
- ・「1年」では、「『人間関係形成・社会形成能力』の育成に関する授業・指導」が93.3%と最も高い。次いで、「『自己理解・自己管理能力』の育成に関する授業・指導」が87.8%である。
- ・「2年」でも、「『人間関係形成・社会形成能力』の育成に関する授業・指導」が92.3%と最も高い。次いで、「『自己理解・自己管理能力』の育成に関する授業・指導」が87.8%である。
- ・「3年」では、「『キャリアプランニング能力』の育成に関する授業・指導」が89.5%と最も高い。次いで「『人間関係形成・社会形成能力』の育成に関する授業・指導」が88.1%、「『課題対応能力』の育成に関する授業・指導」が86.9%である。

(参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成)



(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

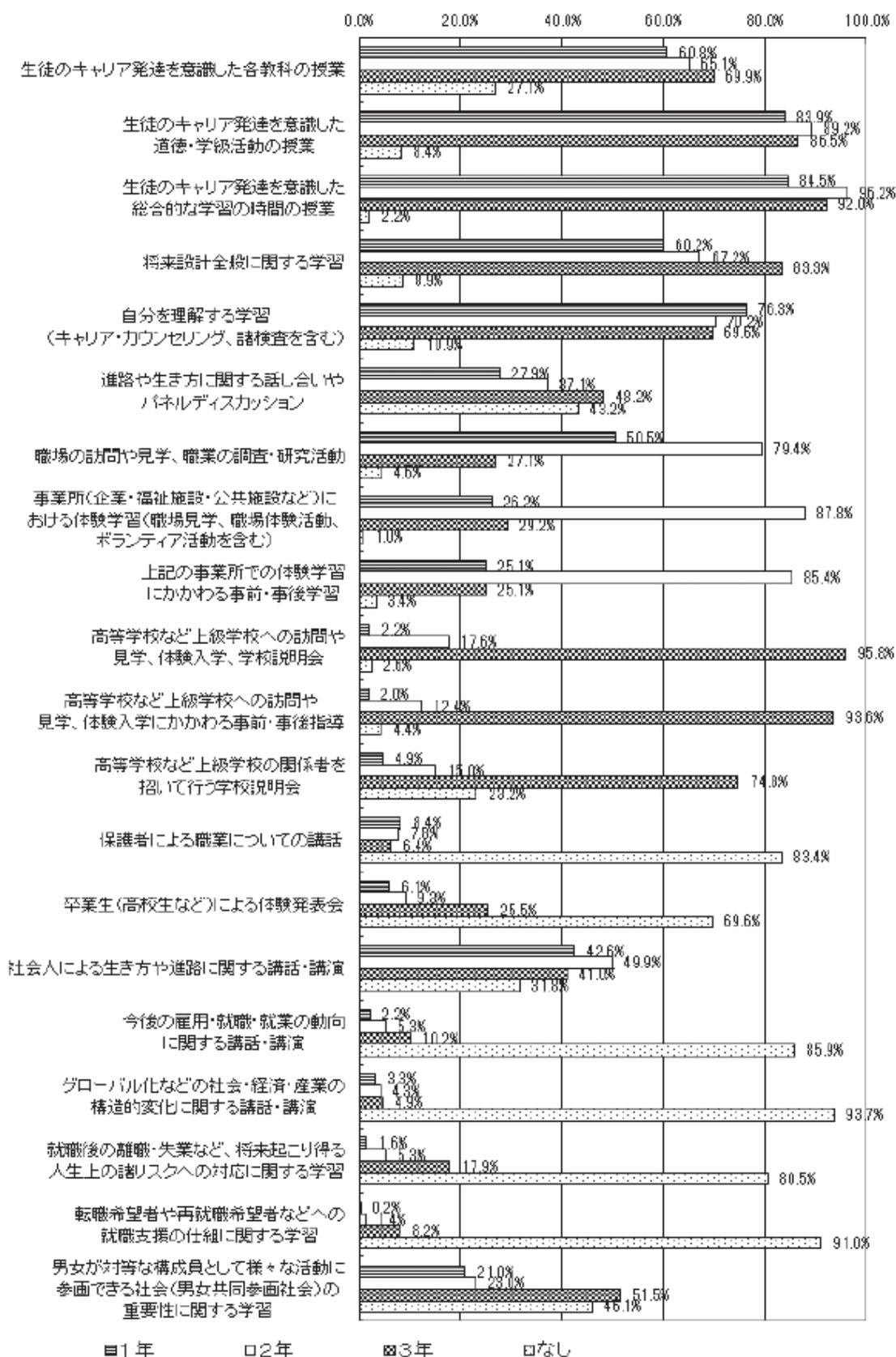
## ④ キャリア教育に関する学習の機会や内容等の実施状況

- ・教育課程の中でのキャリア教育に関する学習の実施は、「生徒のキャリア発達を意識した総合的な学習の時間の授業」（1年84.5%、2年96.2%、3年92.0%）が最も高い。次いで「生徒のキャリア発達を意識した道徳・学級活動の授業」（1年83.9%、2年89.2%、3年86.5%）、「生徒のキャリア発達を意識した教科の授業」（1年60.8%、2年65.1%、3年69.9%）である。
- ・「1年」では、「自分を理解する学習（キャリア・カウンセリング、諸検査を含む）」が76.35%と最も高い。次いで「将来設計全般に関する学習」が60.2%、「職場の訪問や見学、職業の調査・研究活動」が50.5%等の順である。
- ・「2年」では、「事業所（企業・福祉施設・公共施設など）における体験学習（職場見学、職場体験活動、ボランティア活動を含む）」が87.8%と最も高い。次いで「上記の事業所での体験学習にかかわる事前・事後学習」が85.4%、「職場の訪問や見学、職場の調査・研究活動」が79.4%等の順である。
- ・「3年」では、「高校等上級学校への訪問や見学、体験入学、学校説明会」が95.8%と最も高い。次いで「高校等上級学校への訪問や見学、体験入学にかかわる事前・事後学習」が93.6%、「将来設計全般に関する学習」が83.3%等の順である。
- ・どの学年でもあまり実施されていないのは、「グローバル化等の社会・経済・産業の構造的変化に関する講話・講演」が93.7%、「転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組みに関する学習」が91.0%、「今後の雇用・就職・就業の動向に関する講話・講演」が85.9%等である。

（参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成）

【キャリア教育に関する学習の機会や内容等の実施状況】



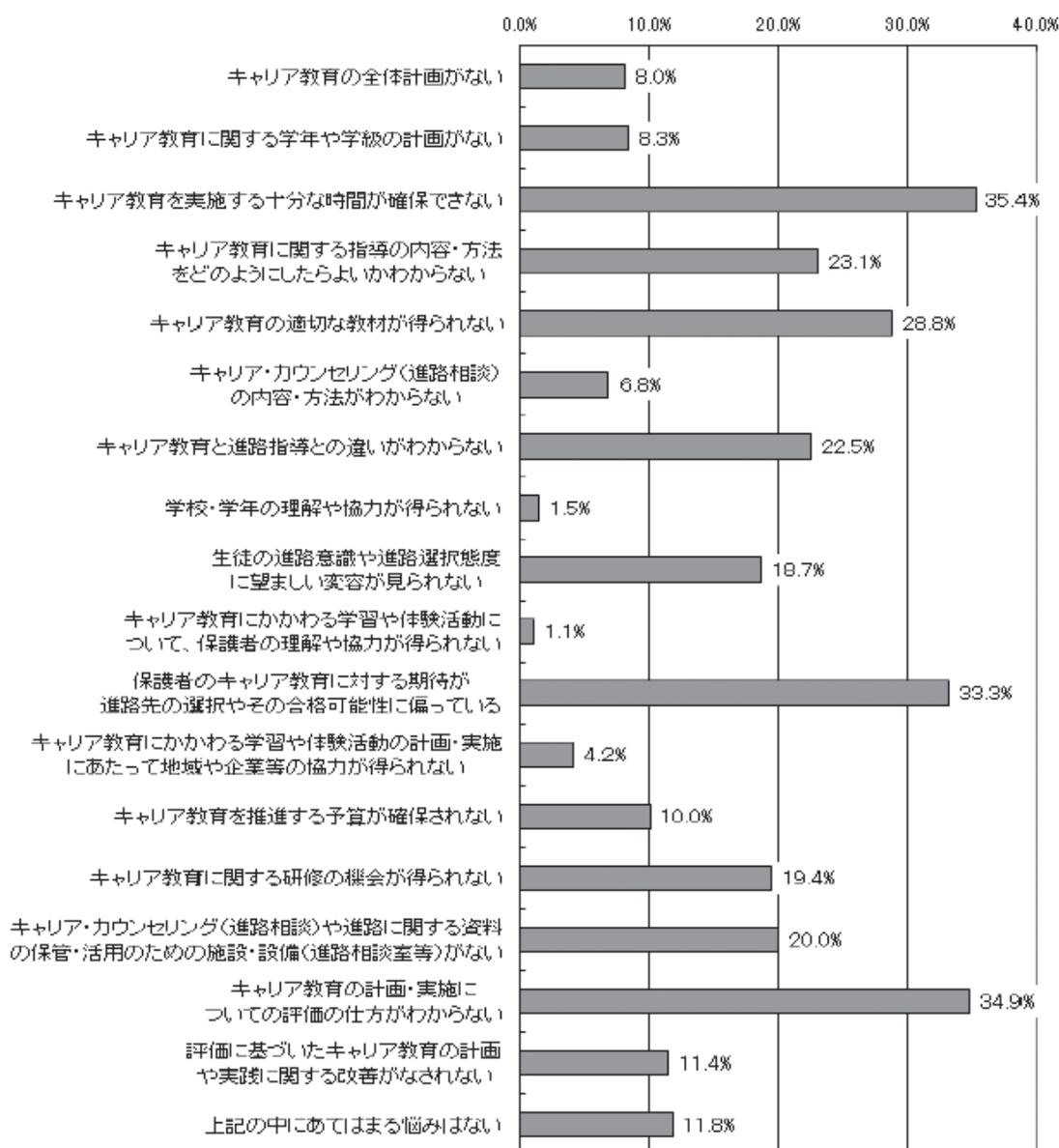
(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター  
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

## ⑤ キャリア教育について困ったり悩んだりしていること

・「キャリア教育を実施する十分な時間が確保できない」が35.4%と最も高い。次いで「キャリア教育の計画・実施についての評価の仕方がわからない」が34.9%、「保護者のキャリア教育に対する期待が進路先の選択やその合格可能性に偏っている」が33.3%等である。

(参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成)

## 【学校のキャリア教育について困ったり悩んだりしていること】



(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

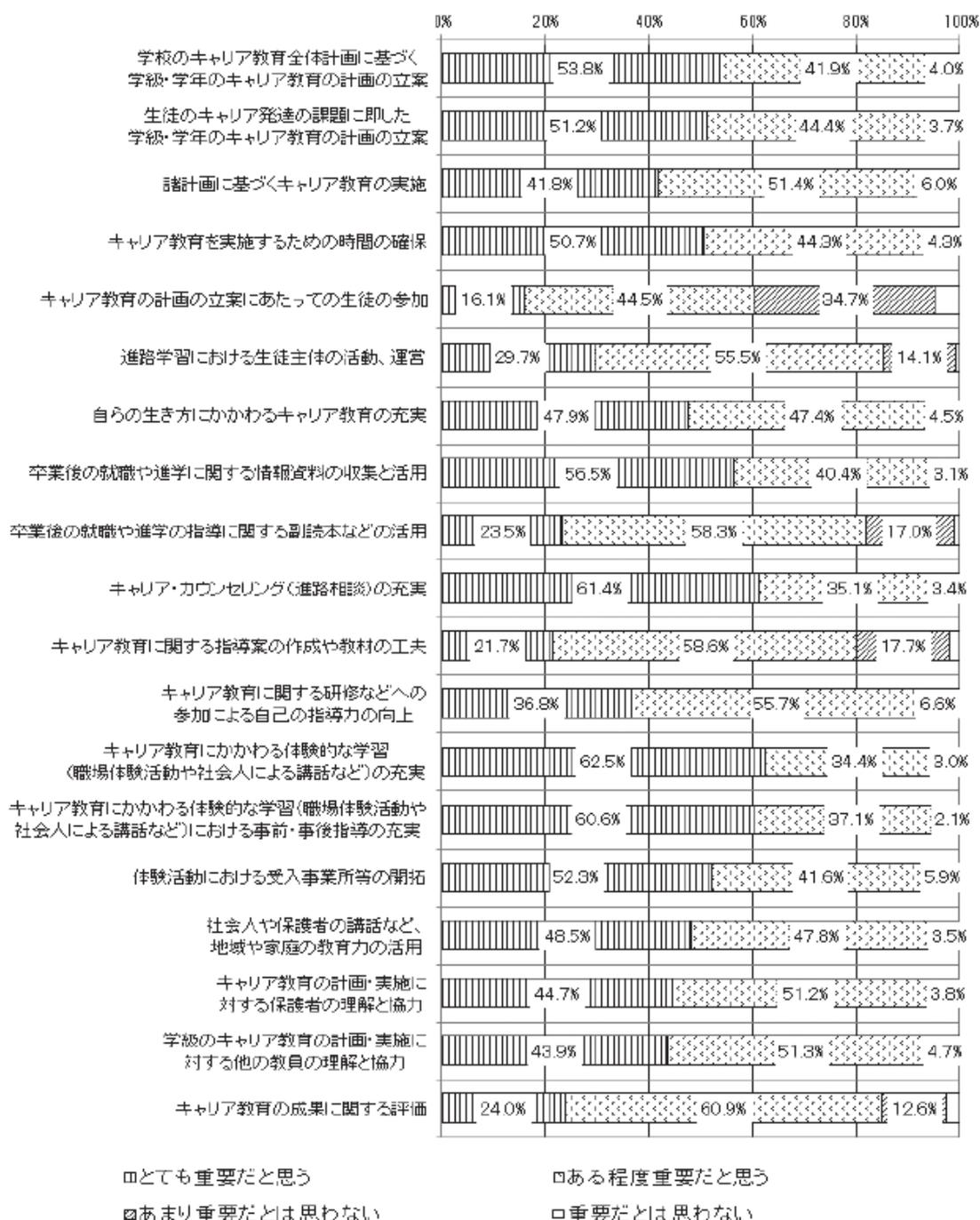
## ⑥ キャリア教育を適切に行っていく上で今後重要になると思われること

・「とても重要だと思う」の割合では、「キャリア教育にかかわる体験的な学習(職場体験活動や社会人による講話など)の充実」が62.5%と最も高い。次いで「キャリア・カウンセリング(進

路相談)の充実」が61.4%、「キャリア教育にかかわる体験的な学習(職場体験活動や社会人による講話など)における事前・事後指導の充実」が60.6%、「卒業後の就職や進学に関する情報資料の収集と活用」が56.5%等の順である。

(参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成)

【キャリア教育を適切に行っていく上で今後重要になると思われること】



(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

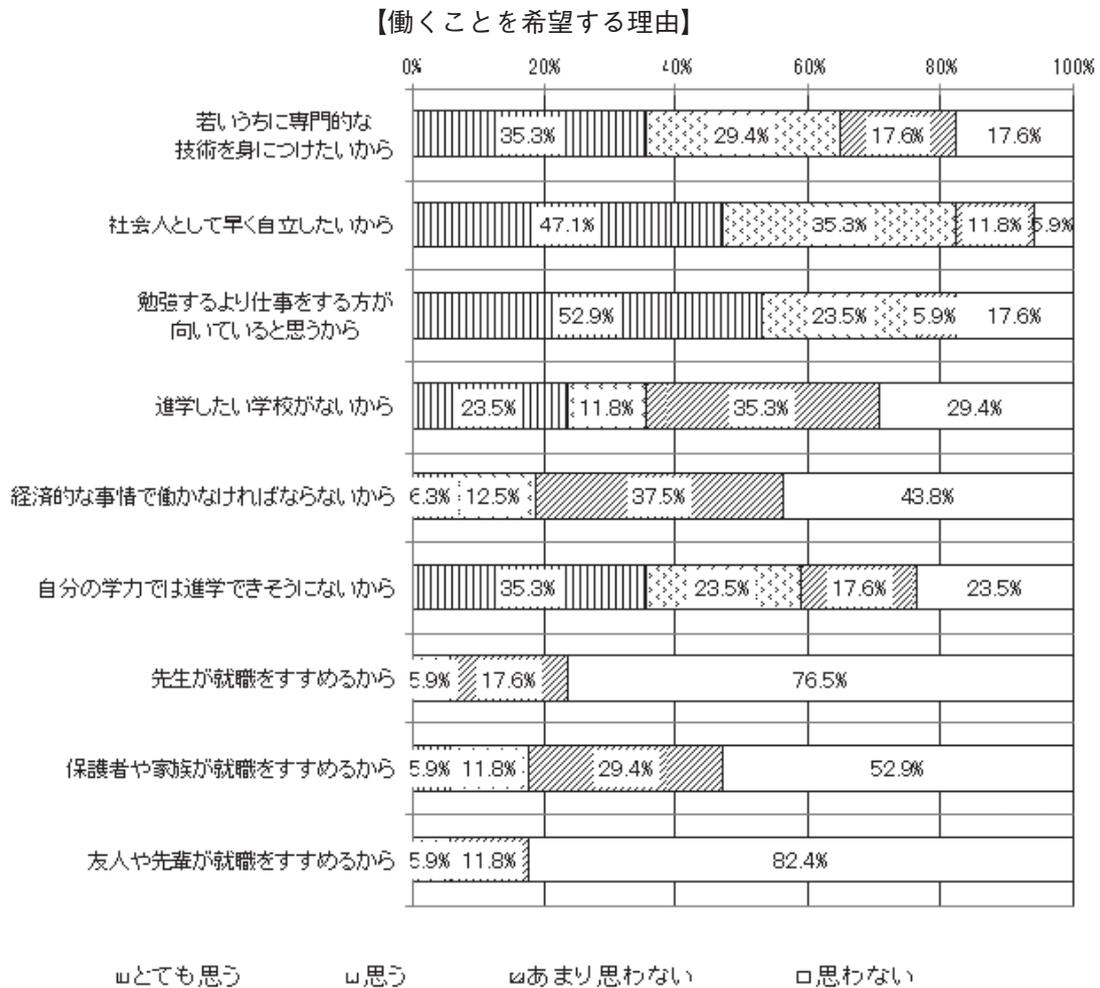
## 2 働くことに対する考え方

### ① 中学校卒業後に働くことを希望する理由

- ・「とても思う」と「思う」を合わせた肯定的な回答の割合を比較すると、「社会人として早く自立したいから」が82.4%と最も高い。次いで「勉強するより仕事をする方が向いていると思うから」が76.4%、「若いうちに専門的な技術を身につけたいから」が64.7%、「自分の学力では進学できそうにないから」が58.8%等の順である。
- ・肯定的な回答の割合が低い項目は、「保護者や家族が就職をすすめるから」が17.7%、「友人や先輩が就職をすすめるから」が5.9%、「先生が就職をすすめるから」が5.9%、である。

(参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成)



(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

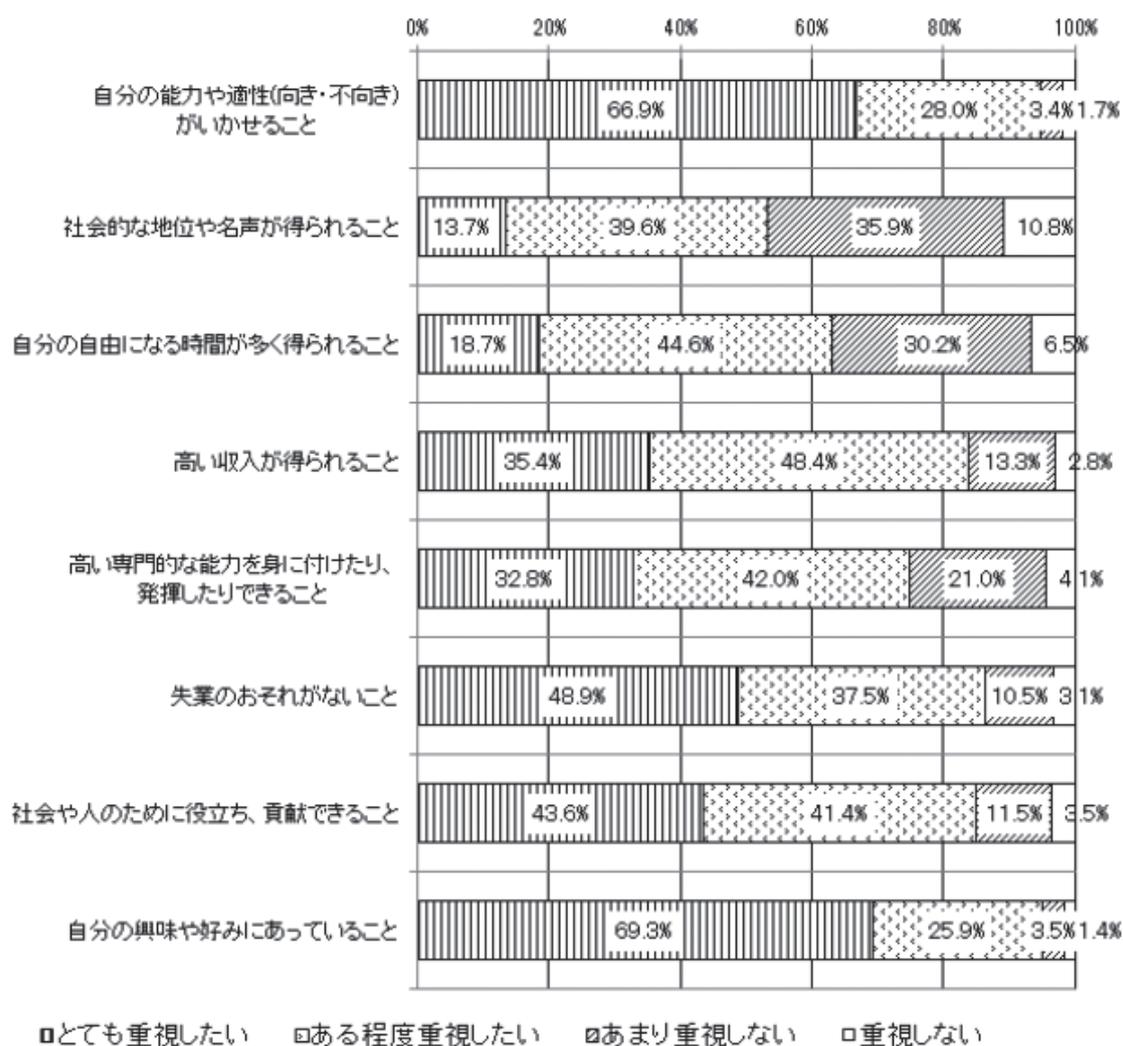
② 自分の職業や仕事を選ぶ際に重視すること

- ・「とても重視したい」と「ある程度重視したい」を合わせた肯定的な回答の割合を比較すると、「自分の興味や好みにあっていること」が95.2%と最も高い。次いで「自分の能力や適性（向き・不向き）がいかせること」が94.9%、「失業のおそれがないこと」が86.4%等の順である。
- ・肯定的な回答の割合が低い項目は、「高い専門的な能力を身に付けたり、発揮したりできること」が74.8%、「自分の自由になる時間が多く得られること」が63.3%、「社会的な地位や名声が得られること」が53.3%等の順である。

(参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成)

【自分の職業や仕事を選ぶ際に重視すること】



(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

## ③ 将来の生き方や進路を考える上で役立つ指導内容

- ・「役に立った」と「少しは役に立った」を合わせた割合を比較すると、「様々な教科における日々の授業」が93.1%と最も高い。次いで「部活動などの課外活動」が85.5%、「係活動・委員会活動や生徒会活動などの日々の活動」が84.6%、「職場での体験活動」が84.1%、「卒業後の進路（進学や就職）についての相談」が82.8%、「職場の見学」が81.4%等の順である。
- ・「役に立った」と「少しは役に立った」を合わせた割合が低い項目は、「将来の（転職希望者や再就職希望者などへの）就職支援の仕組みについての学習」が54.8%、「就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応についての学習」が53.4%、「卒業生の体験発表会」が52.2%等の順である。

（参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成）

#### 職場体験活動の事前指導・事後指導をどうするか

中学校において平成24年度から全面実施となった学習指導要領においては、従前の学習指導要領からの「主な改善事項」の一つに「体験活動の充実」が挙げられています。中学校でのキャリア教育に焦点を絞れば、職場体験活動の一層の充実はとりわけ重要な課題であると言えるでしょう。

そして、職場体験活動をはじめとする様々な体験活動の実施に当たっては、「その場限りの活動で終わらせることなく、事前に体験活動を行うねらいや意義を子どもに十分に理解させ、活動についてあらかじめ調べたり、準備したりすることなどにより、意欲をもって活動できるようにするとともに、事後に感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返り、文章でまとめたり、伝え合ったりすることなどにより他者と体験を共有し、広い認識につなげる必要がある」（中央教育審議会答申、平成20年1月）と指摘されていることを、今一度ここで確認したいと思います。

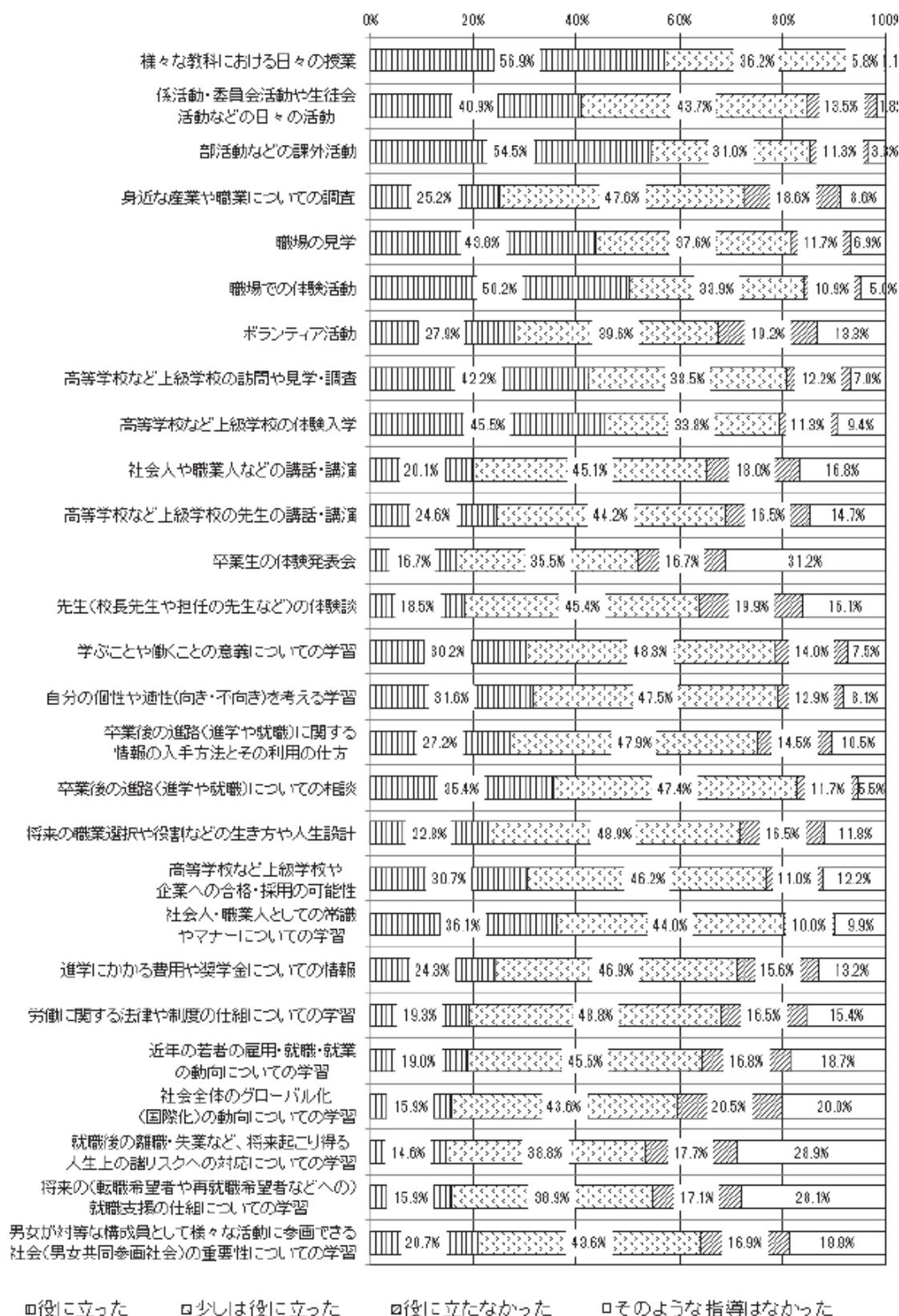
事前指導として特に重要なのは、「ねらいや意義」を十分に理解させることです。何を学ぶために職場に行くのか、その学びを実現するために職場で自分は何を見て、どのような行動をとれば良いのか。一人一人にこの点をしっかりと認識させ、受け入れて下さる事業所や保護者の皆様も含めて共有することが何より重要でしょう。

職場体験活動に限らず、体験活動の成果は、本人の課題意識や基礎知識に大きく左右されます。ややもすると、「つつがなく数日間を過ごさせるための指導」に焦点が絞られがちな事前指導ですが、職場に向かう生徒たちの意識や視野に直接働きかける教育活動であることを改めて認識したいものです。

このような事前指導があつてこそ、体験自体の質も高まり、事後指導においても「他者と体験を共有」すべきポイントが明確になるといえるのではないのでしょうか。そしてそれは、職場体験後の体系的なキャリア教育を一層充実させることにもつながると考えます。

筑波大学人間系 教授 藤田 晃之

【将来の生き方や進路を考える上で役立つ指導内容】



(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

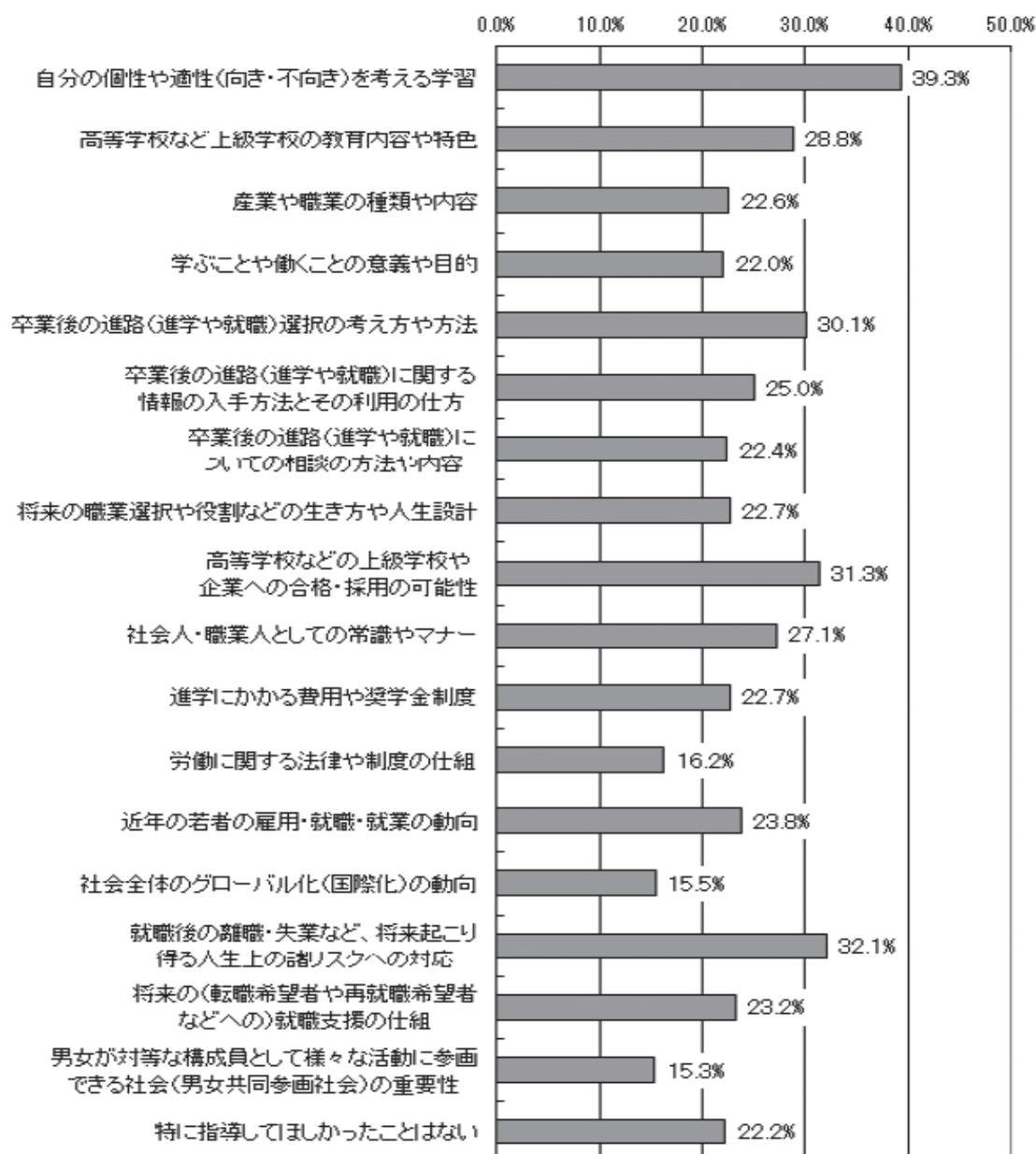
## ④ 将来の生き方や進路について考えるために指導して欲しかったこと

・「自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習」の割合が39.3%と最も高い。次いで「就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応」が32.1%、「高等学校などの上級学校や企業への合格・採用の可能性」が31.3%、「卒業後の進路（進学や就職）選択の考え方や方法」が30.1%、「高等学校などの上級学校の教育内容や特色」が28.8%等の順である。

（参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成）

## 【将来の生き方や進路について考えるために指導して欲しかったこと】



（資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月）

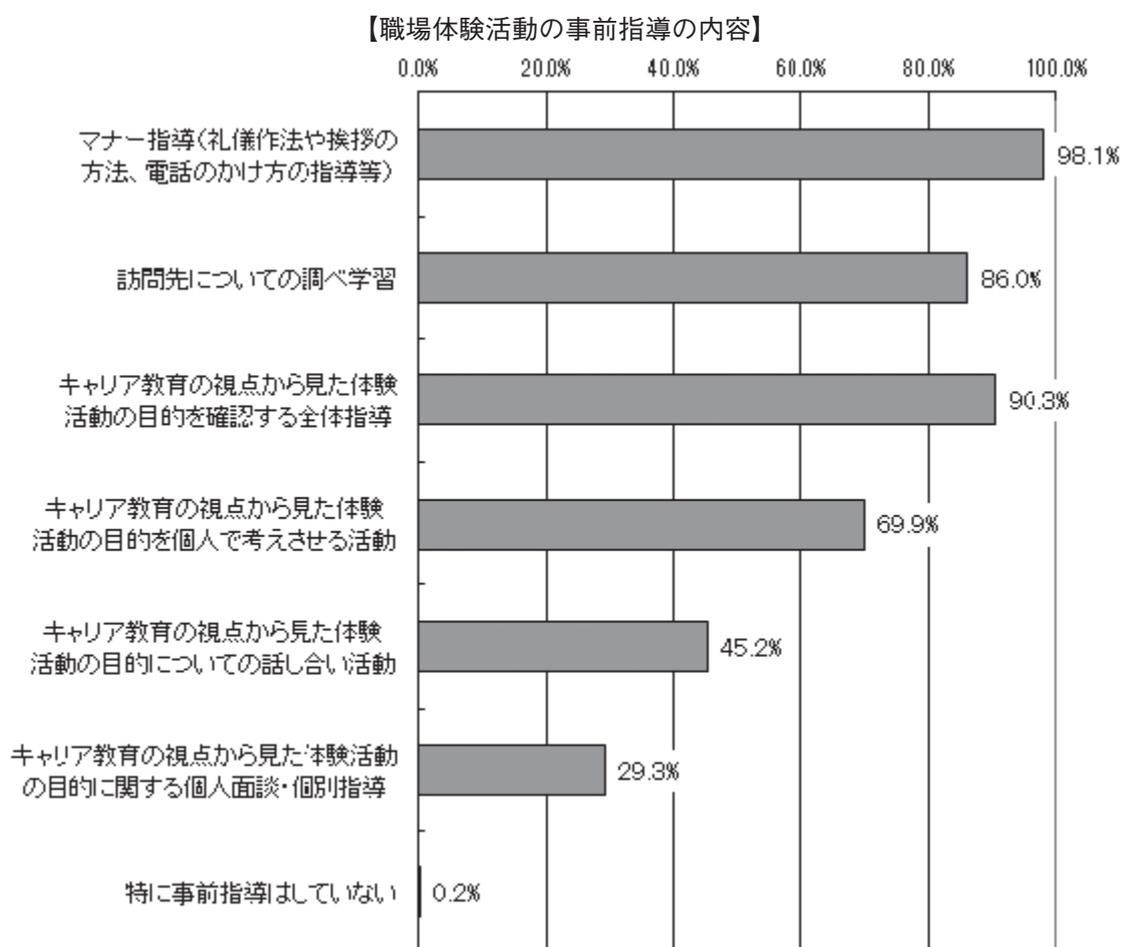
### 3 体験的学習の取組み状況

#### ① 職場体験活動の事前指導の内容

- ・「マナー指導（礼儀作法や挨拶の方法、電話のかけ方の指導等）」の割合が98.1%と最も高い。次いで「キャリア教育の視点から見た体験活動の目的を確認する全体指導」が90.3%、「訪問先についての調べ学習」が86.0%、「キャリア教育の視点から見た体験活動の目的を個人で考えさせる活動」が69.9%等の順である。
- ・割合が低いのは、「キャリア教育の視点から見た体験活動の目的についての話し合い活動」が45.2%、「キャリア教育の視点から見た体験活動の目的に関する個人面談・個別指導」が29.3%等である。

（参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成）



（資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月）

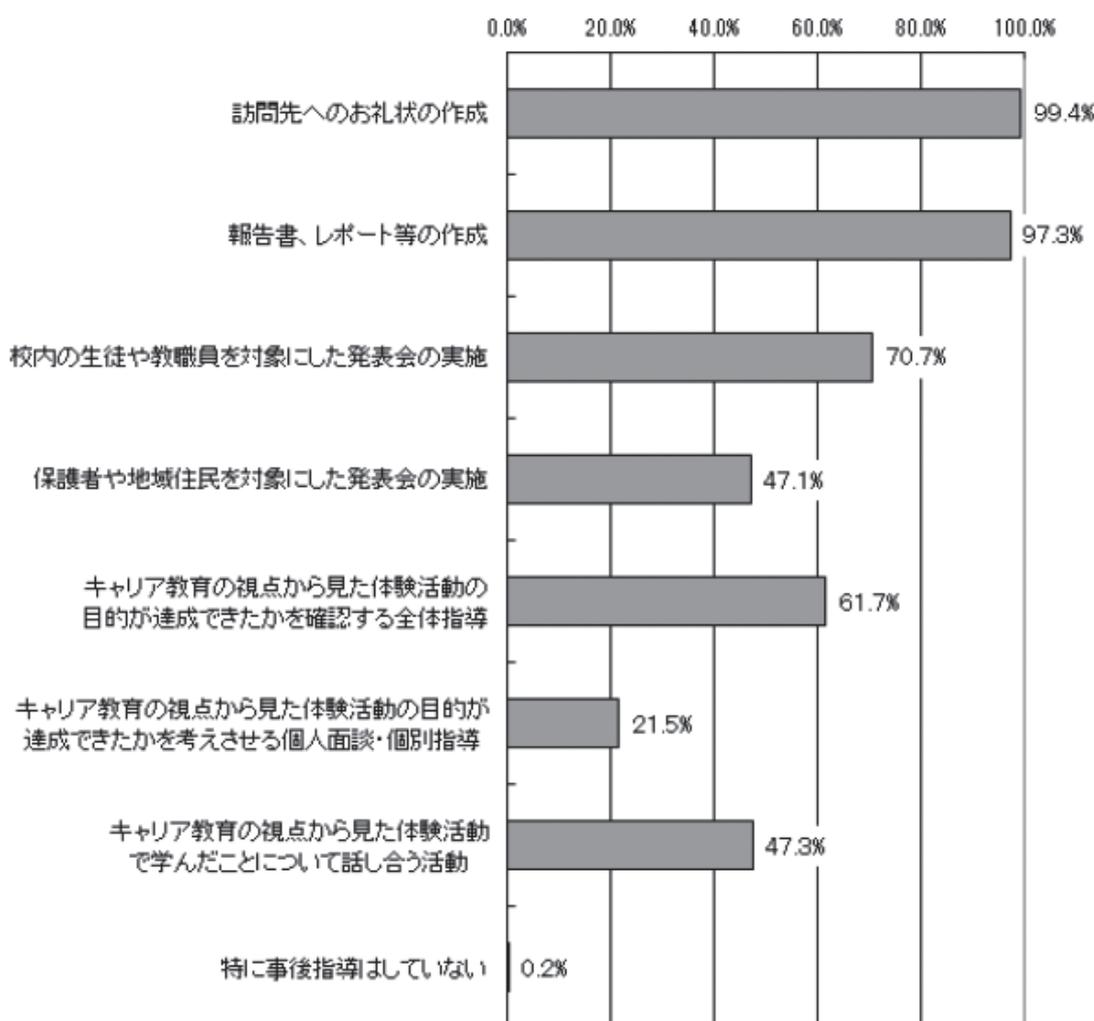
## ② 職場体験活動の事後指導の内容

- ・「訪問先へのお礼状の作成」が99.4%と最も高い。次いで「報告書、レポート等の作成」が97.3%、「校内の生徒や教職員を対象にした発表会の実施」が70.7%、「キャリア教育の視点から見た体験活動の目的が達成できたかを確認する全体指導」が61.7%等の順である。
- ・割合が低いのは、「キャリア教育の視点から見た体験活動の目的が達成できたかを考えさせる個人面談・個別指導」の21.5%である。

(参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成)

【職場体験活動の事後指導の内容】



(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月

## 4 キャリア教育に関する保護者の考え方

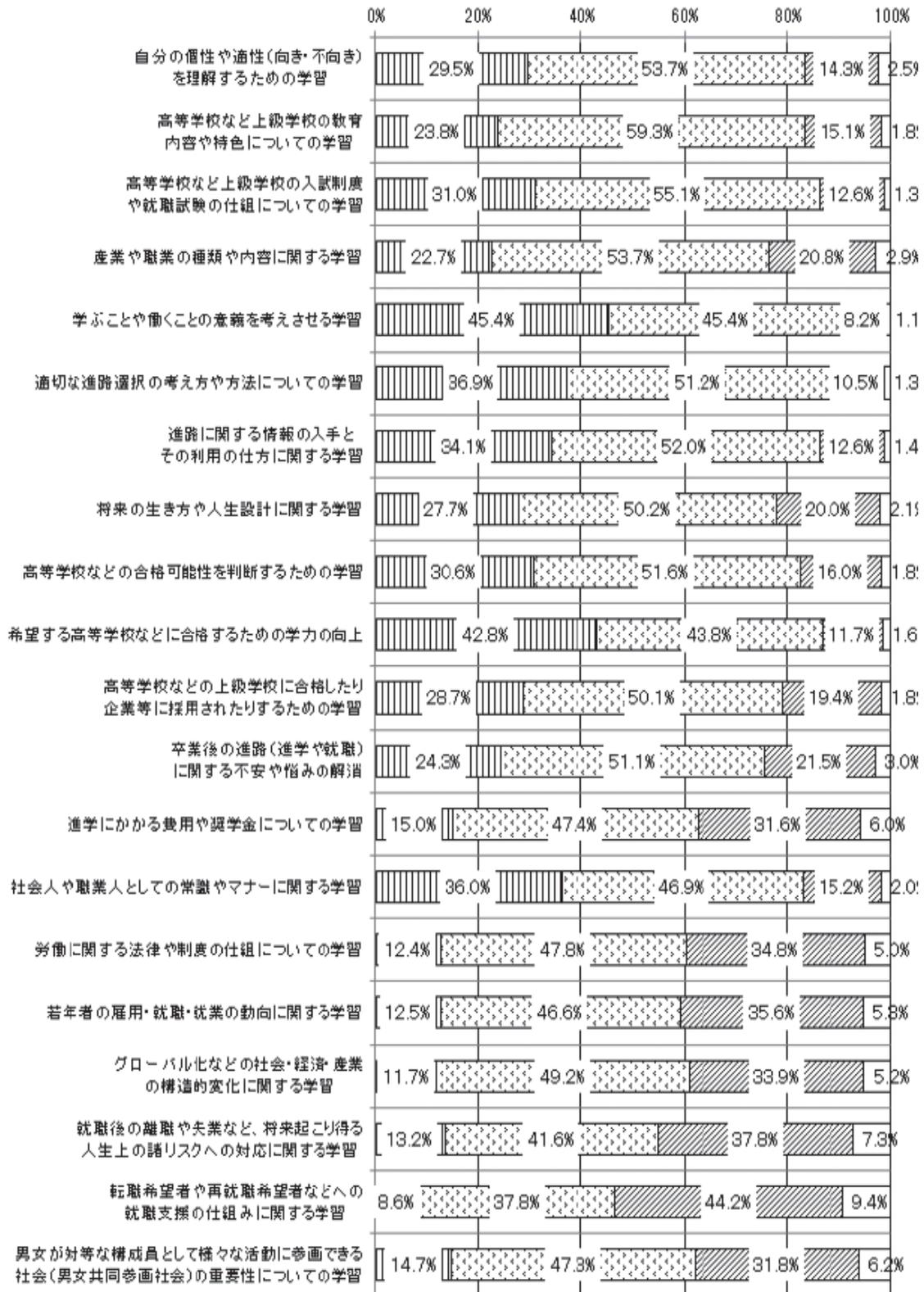
### ① キャリア教育や進路指導において期待する学習内容

- ・「とても期待している」割合についてみると、「学ぶことや働くことの意義を考えさせる学習」が45.4%で最も高い。次いで「希望する高等学校などに合格するための学力の向上」が42.8%、「適切な進路選択の考え方や方法についての学習」が36.9%等の順である。
- ・「とても期待している」と「ある程度期待している」を合計した割合を見ると、「学ぶことや働くことの意義を考えさせる学習」が90.8%と最も高い。次いで「適切な進路選択の考え方や方法についての学習」が88.1%、「希望する高等学校などに合格するための学力の向上」が86.6%等の順である。
- ・「期待していない」と「あまり期待していない」を合計した割合では、「転職希望者や再就職希望者などへの就職支援の仕組みに関する学習」が53.6%、「就職後の離職や失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応に関する学習」が45.1%、「若年者の雇用・就職・就業の動向に関する学習」が40.9%等の順である。

(参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成)

【キャリア教育や進路指導において期待する学習内容】



□とても期待している □ある程度期待している □あまり期待していない □期待していない

(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

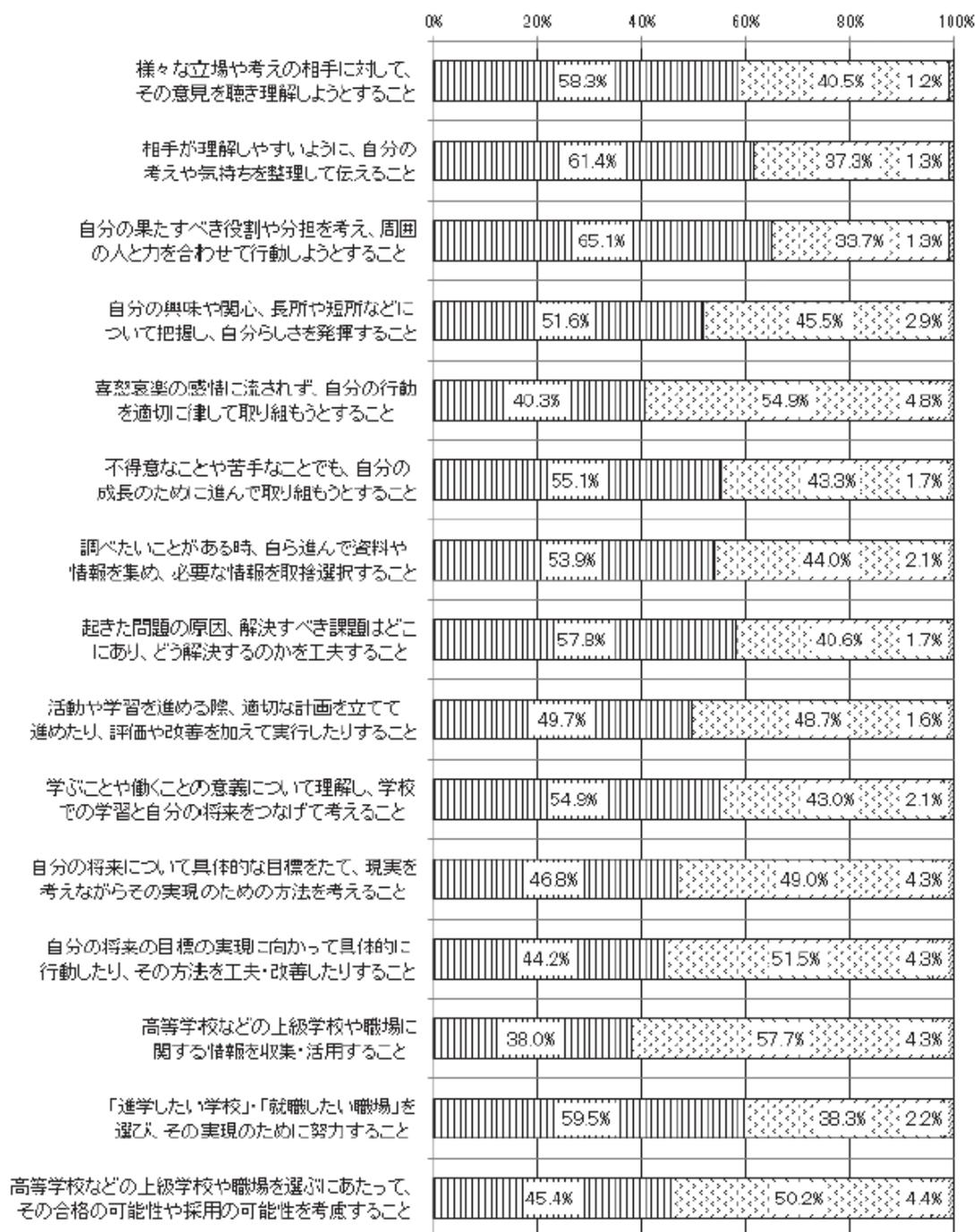
② 学校における授業や生活で指導してほしいこと

- ・「重点をおいて指導してほしいと思う」割合は、「自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとする事」が65.1%と最も高い。次いで「相手が理解しやすいように、自分の考えや気持ちを整理して伝えること」が61.4%、「『進学したい学校』・『就職したい職場』を選び、その実現のために努力すること」が59.5%等である。
- ・「重点をおいて指導してほしいと思う」と「ある程度指導してほしいと思う」を合計した割合では、「様々な立場や考えの相手に対して、その意見を聴き理解しようとする事」と「自分の果たすべき役割や分担を考え、周囲の人と力を合わせて行動しようとする事」で、98.8%、「相手が理解しやすいように、自分の考えや気持ちを整理して伝えること」が98.7%等の順である。

(参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成)

## 【学校における授業や生活で指導してほしいこと】



□重点を置いて指導してほしいと思う □ある程度指導してほしいと思う □特に指導してほしいとは思わない

(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター  
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

## 5 卒業者の考え方

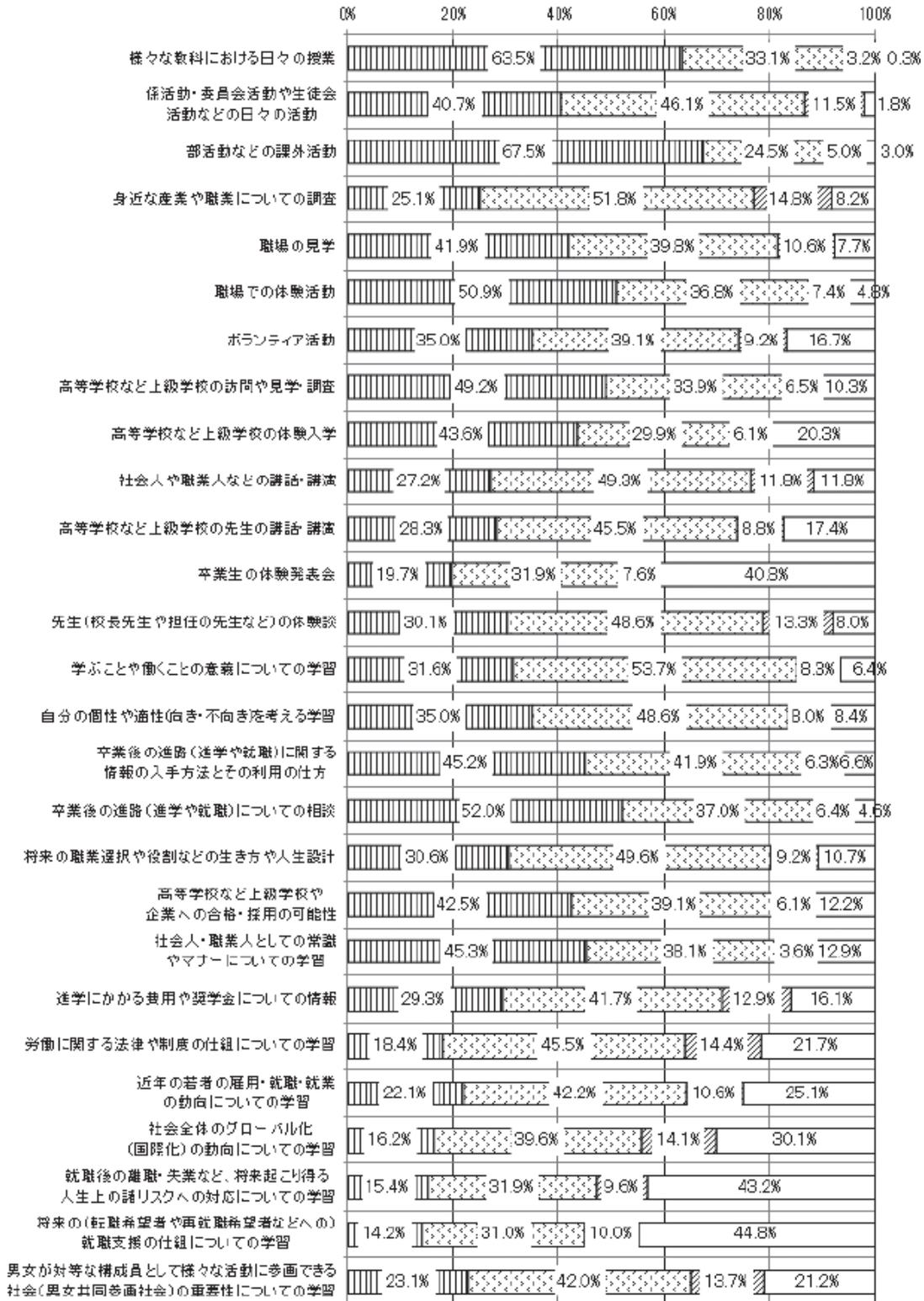
### ① 中学校の時に将来の生き方や進路を考える上で役立った学習や指導

- ・「役に立った」と「少しは役に立った」を合わせた割合をみると、「様々な教科における日々の授業」が96.6%と最も高い。次いで「部活動などの課外活動」が92.0%、「卒業後の進路（進学や就職）についての相談」が89.0%、「職場での体験活動」が87.7%、「卒業後の進路（進学や就職）に関する情報の入手方法とその利用の仕方」が87.1%、「係活動・委員会活動や生徒会活動などの日々の活動」が86.8%、「学ぶことや働くことの意義についての学習」が85.3%等の順である。

（参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成）

【中学校の時に将来の生き方や進路を考える上で役立った学習や指導】



□役に立った □少しは役に立った □役に立たなかった □取り組んでいない(指導がなかった)

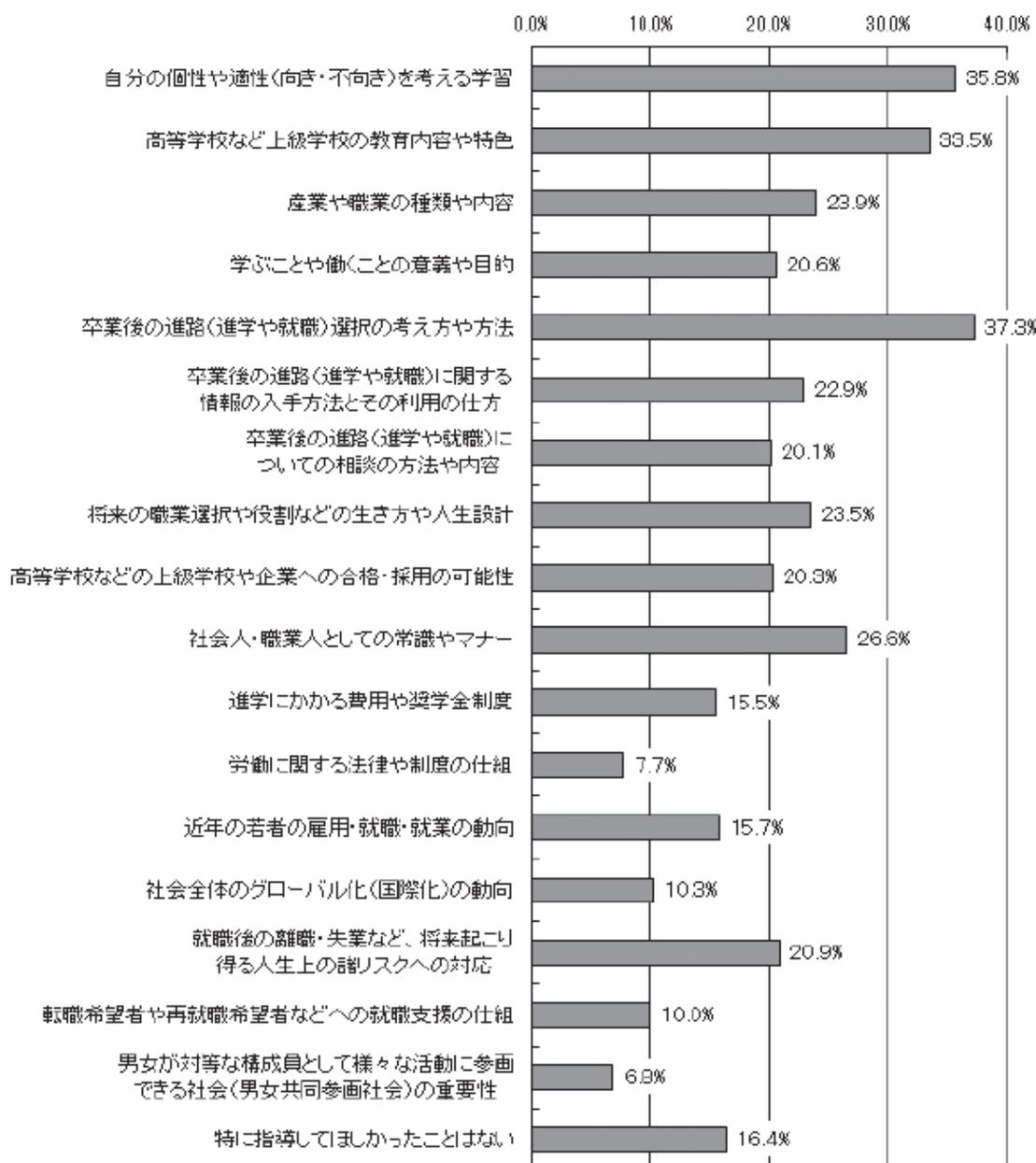
(資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター  
「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月)

- ② 中学校の時に将来の生き方や進路について考えるために指導してほしいこと
- ・「卒業後の進路（進学や就職）選択の考え方や方法」が37.3%と最も高い。次いで「自分の個性や適性（向き・不向き）を考える学習」が35.8%、「高等学校など上級学校の教育内容や特色」が33.5%、「社会人・職業人としての常識やマナー」が26.6%、「産業や職業の種類や内容」が23.9%等の順である。

（参考：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月を基に作成）

【中学校の時に将来の生き方や進路について考えるために指導してほしいこと】



（資料出所：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書」2013年3月）